

2022年度畜産物価格等決定に関する委員長談話

北海道酪農・畜産は、コロナ禍等の影響により厳しい経営環境に晒されている。このため、我々組織は酪農・畜産農家の生産意欲が高められる2022年度畜産物価格及び関連対策の決定と家族経営など多様な経営体を守り育てる酪農・畜産の基本政策の確立に向け、運動を展開してきた。

このほど、2022年度の畜産物価格等が決定し、加工原料乳生産者補給金と集送乳調整金の両単価などが前年据え置きとなった。

コロナ禍で牛乳乳製品の需要が減退しているなかで交付対象数量が据え置きとなったことは評価できるが、配合飼料価格や燃油などの価格が高止まりするなど生産コストが増加している現状を踏まえると、両単価が前年同額となったことは今後の生乳生産に大きな不安を抱える生産者の意欲向上には至らない結果だと言える。

一方、関連対策では前年並みの支援策が措置され、在庫が積み上がっている脱脂粉乳の在庫低減支援対策などが打ち出されたことは組織の要望が一定程度反映された。しかし、道内でホクレンに出荷する生産者は独自対策への拠出や生乳生産の抑制等でより一層の収入減となることが見込まれ、今後もコロナ禍での需要回復には多くの時間を要することから、厳しい経営環境で生産を強いられることとなる。

このため、組織は酪農・畜産経営の安定に向け、生産現場の声に基づいた酪農・畜産基本政策が推進されるよう、引き続き運動を展開していくこととする。

2021（令和3）年12月24日

北海道農民連盟
委員長 大久保 明義